

千姫

姫路城の最も有名な居住者の一人は千姫(1597－1666)で、その人生は政治的ドラマと個人的な悲劇で注目される高貴な婦人だった。

将軍徳川家康(1543－1616)の孫娘であった千姫は 1616 年、姫路の大名である本多家の嫡男と結婚した。それは彼女の二度目の結婚であった。最初の結婚は 1603 年、彼女がわずか 6 歳の時で、豊臣秀吉（1536-1598）の息子である 10 歳の豊臣秀頼（1593－1615）との結婚であった。秀吉は天下を統一したが、彼の死後には権力の真空が生まれた。千姫の結婚は政治的縁組みで、強力な豊臣家と徳川家を結びつける意図があったが、それによってもたらされた平和は短命であった。1615 年、家康は彼女の夫である秀頼との戦いに臨み、大阪にある彼女たちの本拠地である城を包囲し、焼き払ってしまった。千姫はその要塞が落ちるとき救出された。しかし秀頼は自らの名誉を守るために切腹を選んだ。

一年後、19 歳の時、千姫は本多忠刻(1596－1626)と結婚し、姫路に移転した。城の三の丸にある彼女の住居はとても美しいものだったと信じられており、それはだれに聞いても幸せな結婚だった。夫婦は二人の子供を授かった。勝（1618-1678）という名の女儿と幸千代(1619-1621)という名の男児だった。しかし幸千代は二歳の時に病気で亡くなり、また忠刻がその後わずか数年後に 30 歳で亡くなった。

彼女の唯一の息子と二番目の夫を失ったのち、千姫は首都である江戸(現在の東京)へ戻り、尼僧になった。彼女は 69 歳で亡くなるまで、自分が亡くした二人の夫と息子のことを悼んだ。